

# 建築設計製図

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：設計製図は、概念的な計画行為を具体的な3次元空間の実体として構成していくプロセスである。ここでは、概念を図面や模型を通して表現するとともに、内容を検討・確認する作業も必要である。本演習では、そのための道具としての設計製図の基礎的方法を主に建築の設計を通して学ぶ。授業では、小規模な住宅建築やギャラリーを対象として、図学、製図法、意匠の検討、プレゼンテーションについて順次、演習を行う。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要な指定科目（建築設計製図）である。

■**到達目標**：①基本的な図学の能力を基本に建築製図の意匠図までを描く能力を身に付ける。  
②模型や図面を用いた意匠の検討を行い、3次元の空間的思考ができる。  
③構想的に表現するためのプレゼンテーションができること。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎山田 良

■**授業計画・内容**：

## I. 図学と製図法

- 第 1 回 三面図、建築物の立体と図面
- 第 2 回 平面図・立面図・断面図1（住宅）
- 第 3 回 平面図・立面図・断面図2（大規模な建築、傾斜地など）

## II. 住宅の設計を通して学ぶ

- 第 4 回 住宅建築の概要
- 第 5 回 スタディ① プロセスとスケジュール
- 第 6 回 スタディ② 平面の検討
- 第 7 回 スケッチと模型
- 第 8 回 コラージュ（場所の状況や利用者のイメージを表現する）
- 第 9 回 プレゼンテーション作成
- 第 10 回 講評

## III. ギャラリーの設計を通して学ぶ

- 第 11 回 コンセプト・ダイアグラム
- 第 12 回 コラージュ（場所の状況や利用者のイメージを表現する）
- 第 13 回 プレゼンテーションの作成 1
- 第 14 回 プレゼンテーションの作成 2
- 第 15 回 講評

■**教科書**：適宜資料を配布するため、特定の教科書は使用しない。

■**参考文献**：講義内で適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：授業時間内に行う課題と出席状況により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度		◎		授業内のエスキスの積極性	50
課題・作品	◎		◎		50
出席				2/3以上の出席	欠格要件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習I～Ⅲ（建築・環境）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：人間空間デザインコースで建築士受験資格の取得を希望する学生は履修を強くおすすめします。空間デザインにおいては、原寸で考えることはもちろん、様々な縮尺を用いて、抽象化と具体化を繰り返して行う必要があります。この授業は、建築空間の事例を通して、縮尺の差異による設計や表現の要点に着いて学びます。それらを通してデザイン全般への応用可能な基礎的製図法を学んでほしいと思います。